

千葉県看護協会 「令和4年度 看護職定着確保動向調査（求職者）」概要

離職理由は「人間関係」21.5%、「出産育児子供のため」20.0%、「看護内容への不満」15.4%

調査の概要

調査目的	離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件等を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る
調査対象	千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職
調査時期	令和4年5月16日～令和4年5月30日
調査方法	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収
回収状況	配布数：429名 回収数：65名 回収率：15.2%

調査結果のポイント

1. 回収状況と回答者の属性

- 今年度は429名に配布し、回収数は65名で、回収率は15.2%であった。前年度は、386名に配布し、回収数は132名で、回収率は34.2%だった。比較し、19ポイント減少した。
- 性別は、「女性」95.4%、「男性」3.1%であった。
- 年齢は、「40代」が32.3%と最も多く、次いで「30代」29.2%、「60歳以上」18.5%の順であった。
- 居住地区は、「千葉地区」30.8%が最も多く、次いで「船橋地区」21.5%、「東葛地区」12.3%の順であった。
- ブランク期間は、「0～3年」の61.5%が最も多く、次いで「6～10年」12.3%、「4～5年」10.8%、「11年以上」7.7%の順であった。

2. 離職時の職種、雇用形態、勤務形態

- 離職時の職種は、「看護師」が最も多く78.5%、次いで「准看護師」9.2%、同率で「保健師」「助産師」4.6%の順であった。
- 離職時の雇用形態は、同率で「正規職員」「非常勤職員」が46.2%と最も多く、次いで「派遣」3.1%、の順であった。
- 離職時の勤務形態は「日勤のみ」が最も多く53.8%、次いで「二交代制」16.9%、「短時間勤務」15.4%の順であった。

3. 看護業務の通算勤務年数、離職直前の施設での勤務年数

- 看護業務の通算勤務年数は、「10～14年」が最も多く26.2%、次いで「20年以上」24.6%、「7～9年」20.0%、「4～6年」12.3%の順であった。

表1 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
1	2	8	13	17	7	16	1
1.5%	3.1%	12.3%	20.0%	26.2%	10.8%	24.6%	1.5%

○離職直前の施設での勤務年数は、「1～3年」が最も多く32.3%、次いで「7～9年」20.0%、「4年～6年」15.4%の順であった。

4. 離職理由

○離職理由は、「人間関係」が最も多く21.5%、次いで「出産育児子供のため」20.0%、「看護内容への不満」15.4%であった。

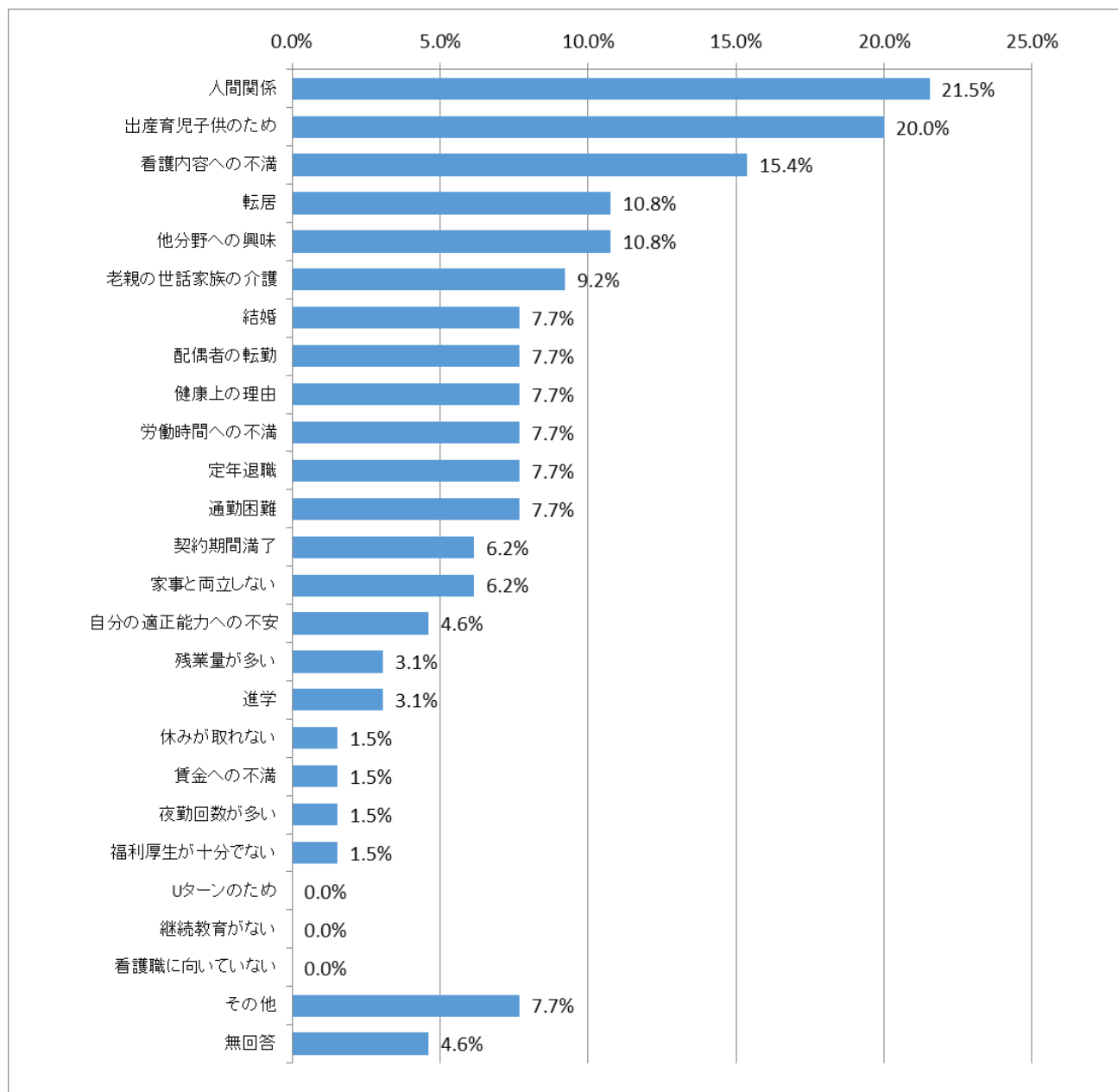


図1 離職理由（複数回答）

5. 人間関係が難しかった相手

○離職理由で「人間関係」を選択した人に人間関係が難しかった相手を尋ねると、「同僚」57.1%が最も多く、次いで「先輩」28.6%、同率で「師長等中間管理職」「他の専門職」21.4%であった。

6. 「看護内容への不満」の具体的理由

○離職理由を「看護内容への不満」と回答した具体的理由は、「看護業務以外の仕事が多い」70.0%が最も多かった。

7. 就業条件

○就業条件は、「通勤に便利な職場」が最も多く 50.8%、次いで「休みがとりやすい」49.2%、「柔軟な勤務形態の導入」38.5%、「夜勤がない」24.6%の順であった。

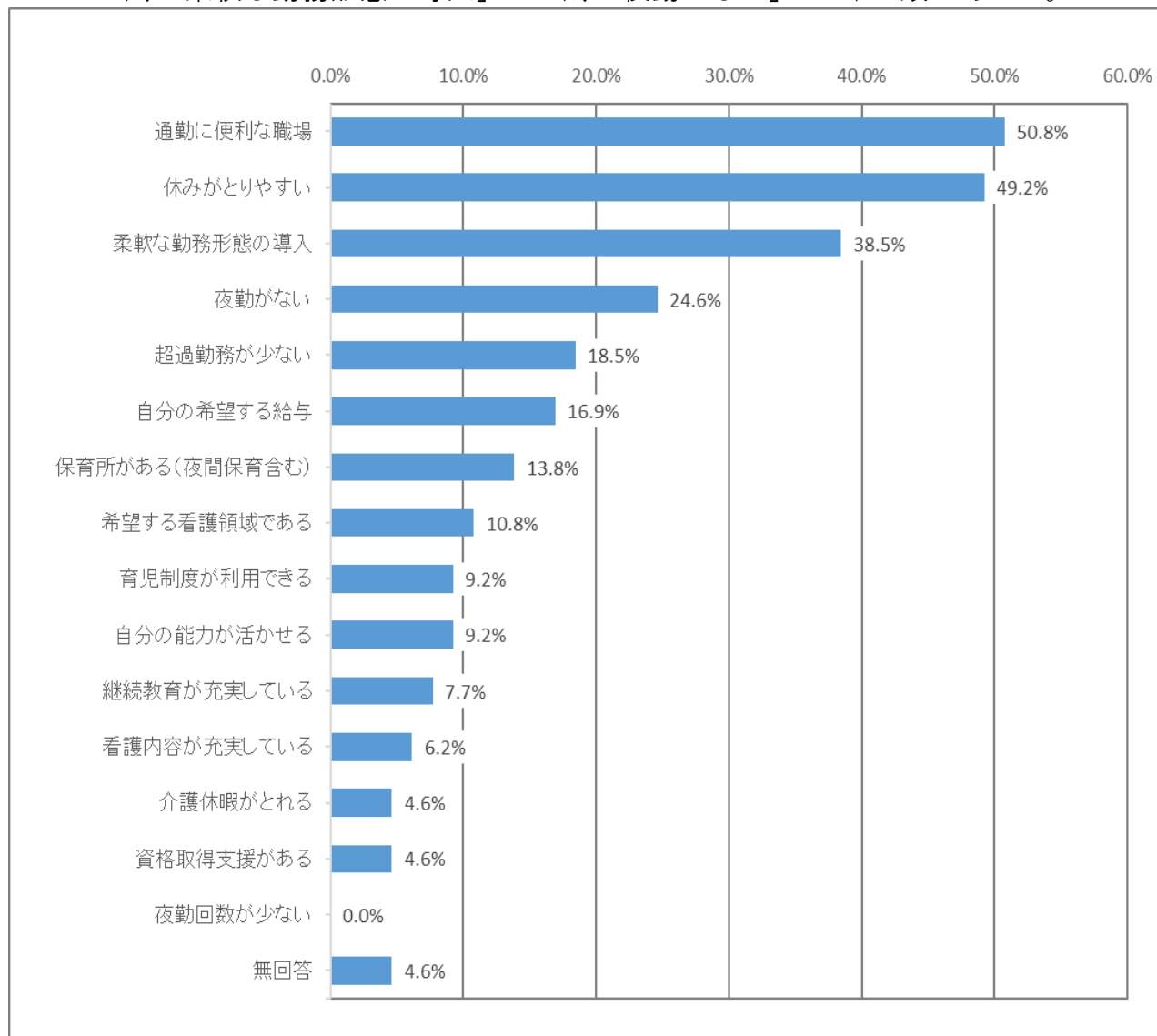


図2 希望の就業条件

令和4年度 看護職の定着確保動向調査結果 — 求職者対象 —

I.調査概要

調査目的	離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件等を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る
調査対象	千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職
調査時期	令和4年5月16日 ～ 令和4年5月30日
調査方法	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収
回収状況	配布数 : 429 名 回収数 : 65 名 回答率 : 15.2%

II.調査結果

1.ブランク期間

ブランク期間は、「0～3年」の61.5%が最も多く、次いで「6～10年」12.3%、「4～5年」10.8%、「11年以上」7.7%の順であった。

<表1> ブランク期間 (n= 65)

0～3年	4～5年	6～10年	11年以上	無回答
40	7	8	5	5
61.5%	10.8%	12.3%	7.7%	7.7%

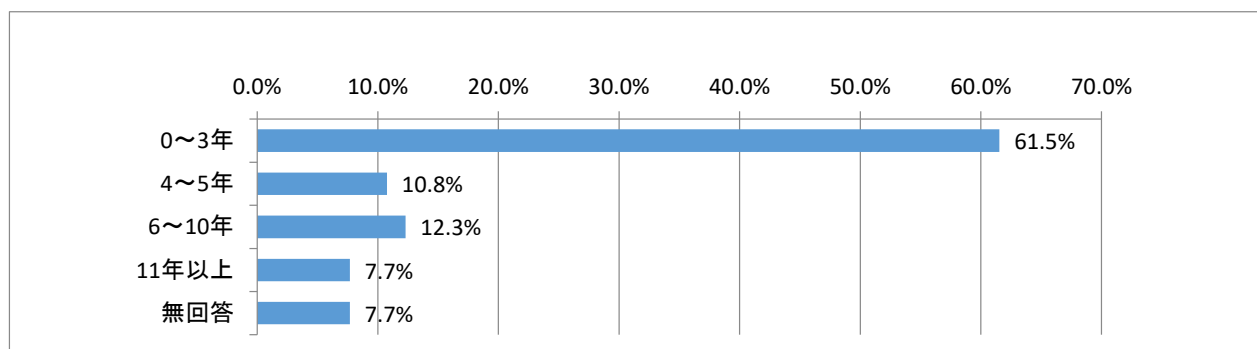


図1 ブランク期間

2.居住地区

居住地区は、「千葉地区」30.8%が最も多く、次いで「船橋地区」21.5%、「東葛地区」12.3%の順であった。

<表2> 住所 (n= 65)

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛
20	1	14	3	5	8
30.8%	1.5%	21.6%	4.6%	7.7%	12.3%

印旛	利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
5	0	2	1	4	1	1	0
7.7%	0.0%	3.1%	1.5%	6.2%	1.5%	1.5%	0.0%

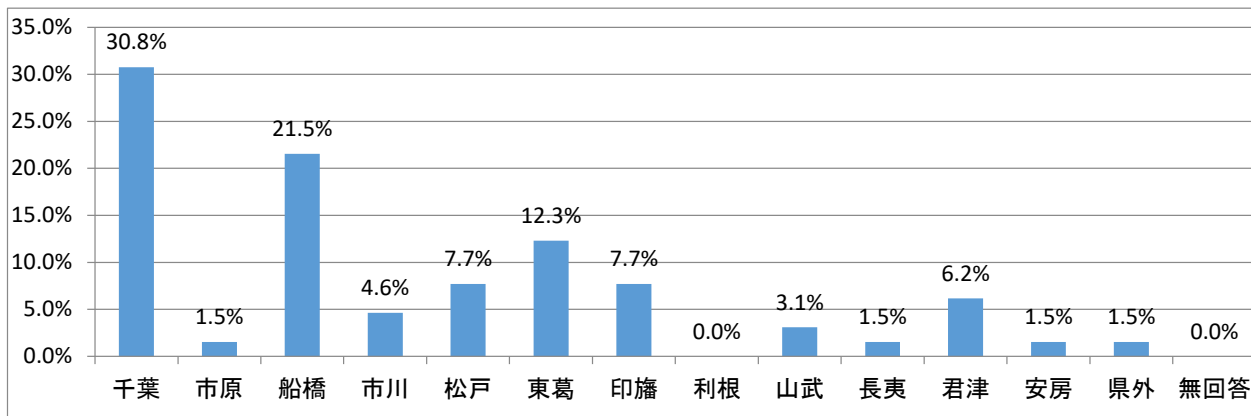


図2 回答者 居住地区

3.年齢

年齢は、「40代」が32.3%と最も多く、次いで「30代」29.2%、「60歳以上」18.5%の順であった。

<表3> 年齢

(n = 65)

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
0	3	19	21	9	12	1
0.0%	4.6%	29.2%	32.3%	13.9%	18.5%	1.5%

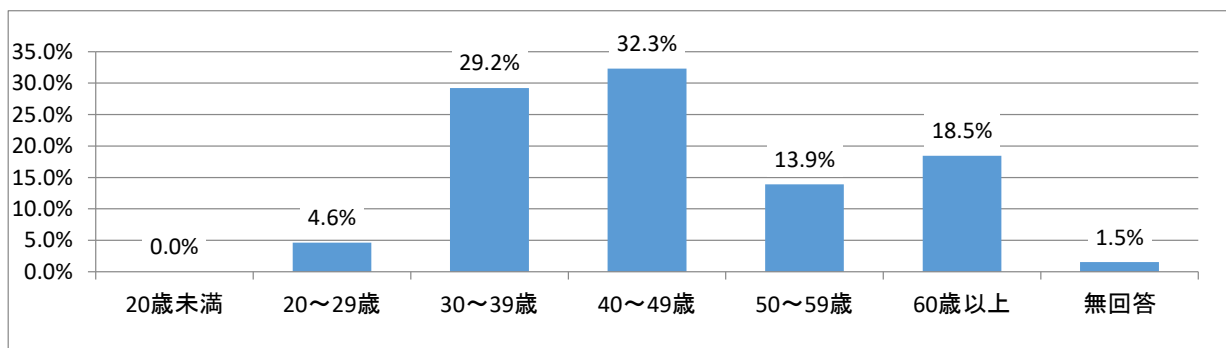


図3 年齢

4.性別

性別は、「女性」95.4%、「男性」3.1%であった。

<表4> 性別 (n = 65)

女性	男性	無回答
62	2	1
95.4%	3.1%	1.5%

5.離職時の職種

離職時の職種は、「看護師」が最も多く78.5%、次いで「准看護師」9.2%、同率で「保健師」「助産師」4.6%の順であった。

<表5> 離職時の職種 (n = 65)

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
3	3	51	6	2
4.6%	4.6%	78.5%	9.2%	3.1%

6.離職時の雇用形態

離職時の雇用形態は、同率で「正規職員」「非常勤職員」が最も多く46.2%、次いで「派遣」3.1%の順であった。

<表6> 離職時の雇用形態 (n= 65)

正規職員	非常勤職員	派遣	無回答
30	30	2	3
46.2%	46.2%	3.1%	4.6%

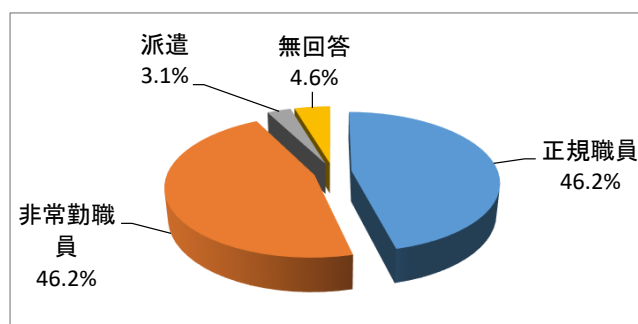


図4 離職時の雇用形態

7.離職時の勤務形態

離職時の勤務形態は「日勤のみ」が最も多く53.8%、次いで「二交代制」が16.9%、「短時間勤務」15.4%の順であった。

<表7> 離職時の勤務形態 (n= 65)

日勤のみ	三交代制	二交代制	短時間勤務	夜勤のみ	無回答
35	7	11	10	0	2
53.8%	10.8%	16.9%	15.4%	0.0%	3.1%

8.看護業務の通算勤務年数

看護業務の通算勤務年数は、「10～14年」が最も多く26.2%、次いで「20年以上」24.6%、「7～9年」20.0%、「4～6年」12.3%の順であった。

<表8> 看護業務の通算勤務年数 (n= 65)

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
1	2	8	13	17	7	16	1
1.5%	3.1%	12.3%	20.0%	26.2%	10.8%	24.6%	1.5%

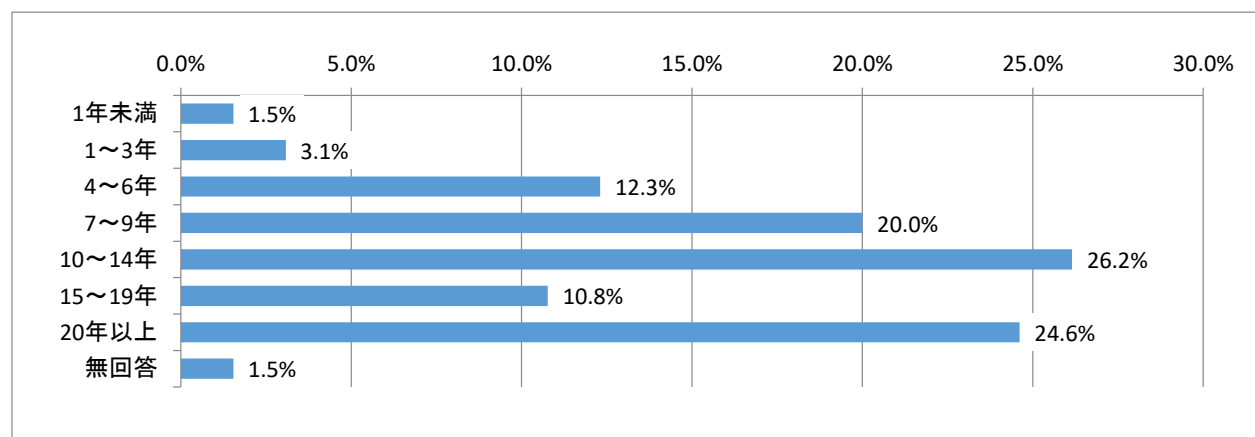


図5 通算勤務年数

9.離職直前の施設での勤務年数

離職直前の施設での勤務年数は、「1～3年」が最も多く32.3%、次いで「7～9年」20.0%、「4～6年」15.4%の順であった。

<表9> 離職直前の施設での勤務年数 (n= 65)

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
7	21	10	13	4	2	5	3
10.8%	32.3%	15.4%	20.0%	6.1%	3.1%	7.7%	4.6%

10.離職理由

離職理由は、「人間関係」が最も多く21.5%、次いで「出産育児子供のため」20.0%、「看護内容への不満」15.4%であった。

<表10> 離職理由(複数回答・3つまで)

(n = 65)

人間関係	出産育児子供のため	看護内容への不満	転居	他分野への興味	老親の世話家族の介護	定年退職	結婚	配偶者の転勤	健康上の理由
14	13	10	7	7	6	5	5	5	5
21.5%	20.0%	15.4%	10.8%	10.8%	9.2%	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%
通勤困難	労働時間への不満	契約期間満了	家事と両立しない	自分の適正能力への不安	残業量が多い	進学	賃金への不満	夜勤回数が多い	福利厚生が十分でない
5	5	4	4	3	2	2	1	1	1
7.7%	7.7%	6.2%	6.2%	4.6%	3.1%	3.1%	1.5%	1.5%	1.5%
休みが取れない	Uターンのため	看護職に向いていない	継続教育がない	その他	無回答	<その他> ○医師が死亡し閉院になる ○妊活のため ○高齢、69歳のため ○残業代がない			
1	0	0	0	5	1				
1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	1.5%				

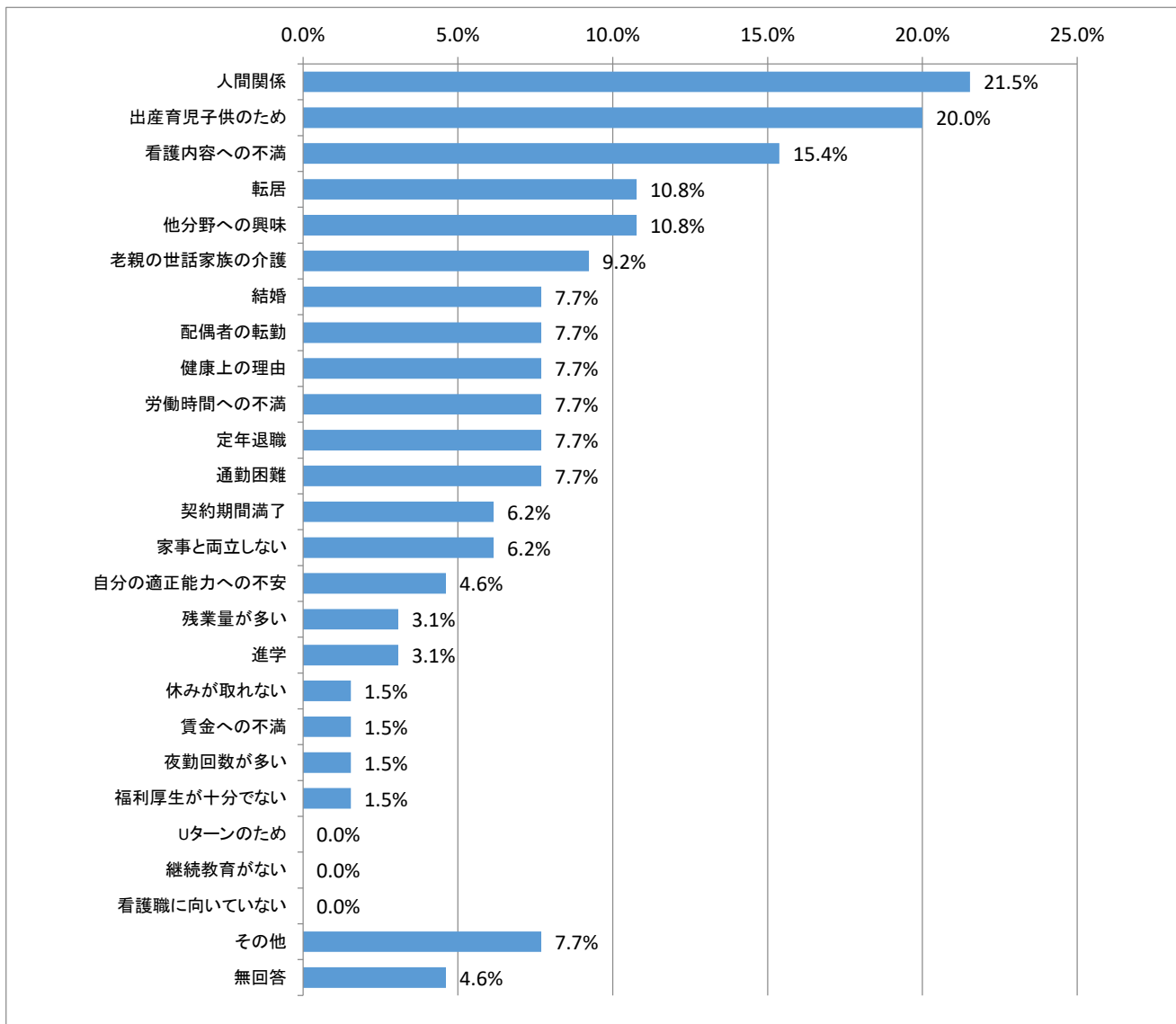


図6 離職理由

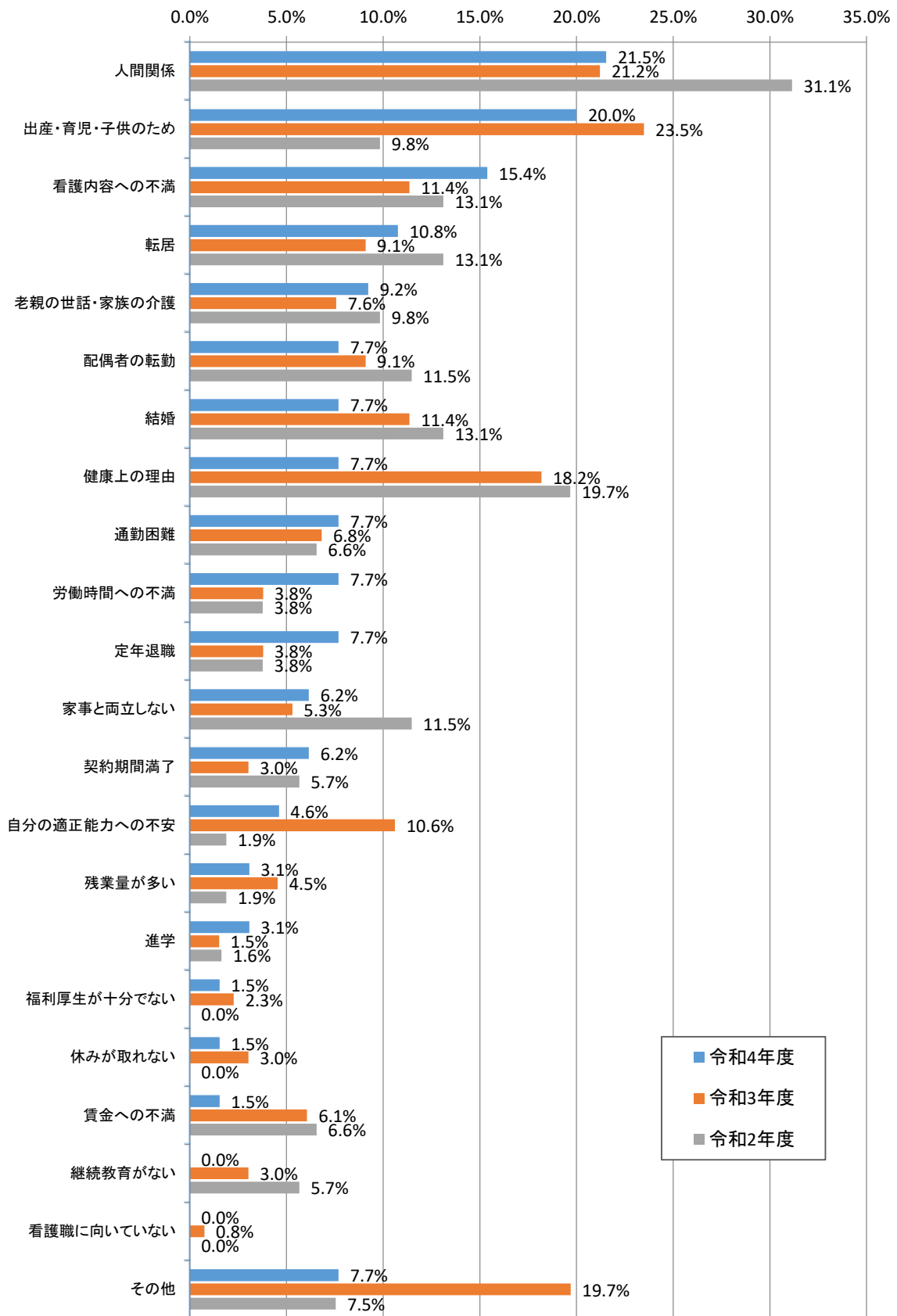


図7 離職理由(3年推移)

11.人間関係が難しかった相手（10で選択）

人間関係が難しかった相手を尋ねると、「同僚」が最も多く57.1%、次いで「先輩」28.6%、同率で「師長等中間管理者」「他の専門職」21.4%であった。

<表11> 人間関係が難しかった相手（複数回答） (n= 14)

同僚	先輩	師長等中間管理者	他の専門職	医師	看護管理者	一般職員	患者	患者の家族	その他
8	4	3	3	1	0	0	0	0	2
57.1%	28.6%	21.4%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%

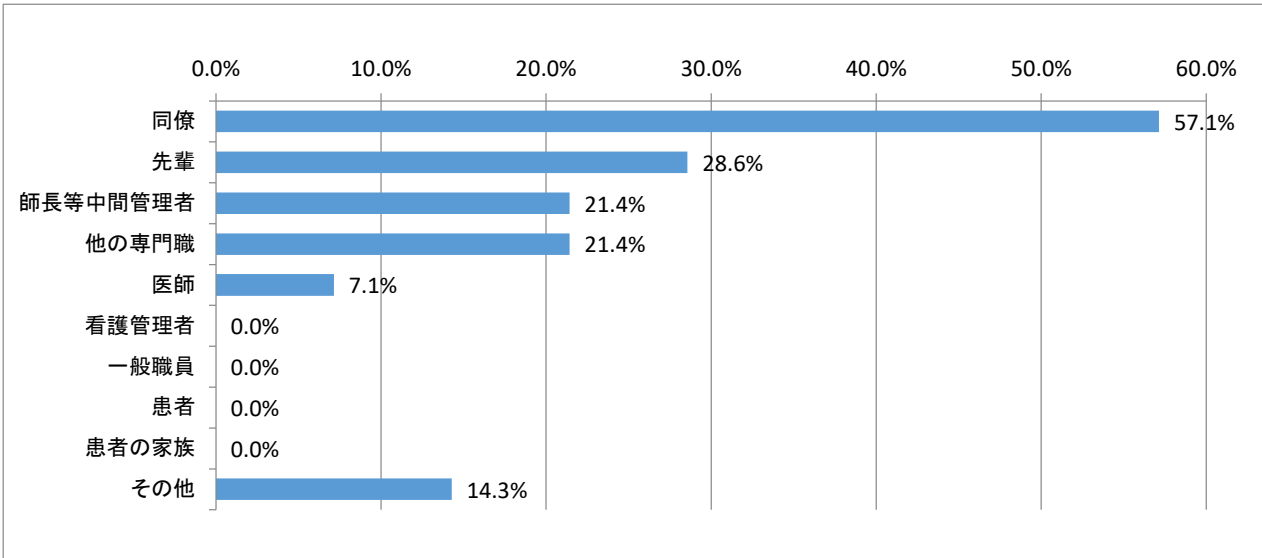


図8 人間関係が難しかった相手

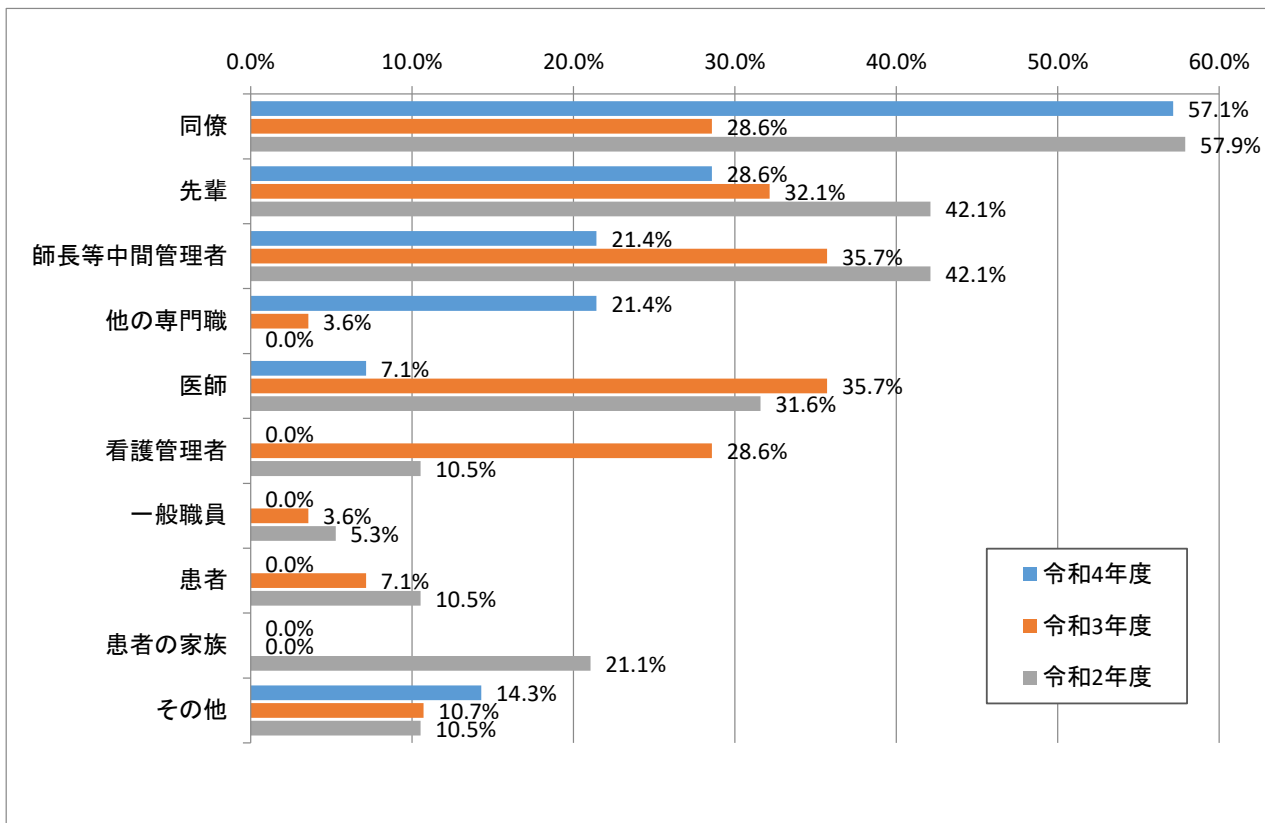


図9 人間関係が難しかった相手(3年推移)

12.「看護内容への不満」の具体的理由（問10で選択）

離職理由を「看護内容への不満」と回答した具体的理由は、「看護業務以外の仕事が多い」

70.0%が最も多かった。

<表12> 「看護内容への不満」の具体的理由(複数回答)

(n=10)

看護業務以外の仕事が多い	患者とのコミュニケーションに時間が取れない	医療処置が多い	その他	無回答
7	1	0	4	0
70.0%	10.0%	0.0%	40.0%	0.0%

その他

- 看護体制が整っていない
- 委員会、勉強会、看護研究で時間外が多い

- コロナ集団発生時の対応で看護側と、会社側での意思の相違、また休日にも人手不足により出勤することになっていた

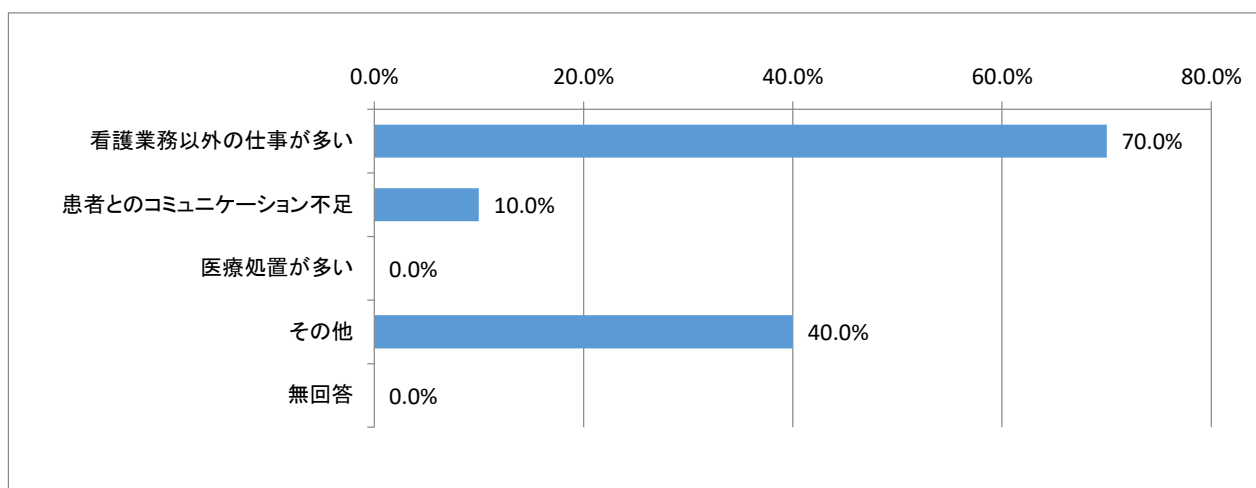


図10 看護内容への不満

13.就業条件

就業条件は、「通勤に便利な職場」が最も多く50.8%、次いで「休みがとりやすい」49.2%、

「柔軟な勤務形態の導入」38.5%、「夜勤がない」24.6%の順であった。

<表13> 就業条件(複数回答・主な要件3つまで)

(n=65)

通勤に便利な職場	休みがとりやすい	柔軟な勤務形態の導入	夜勤がない	超過勤務が少ない	自分の希望する給与	保育所がある(夜間保育含む)	希望する看護領域である	育児制度が利用できる	自分の能力が活かせる
33	32	25	16	12	11	9	7	6	6
50.8%	49.2%	38.5%	24.6%	18.5%	16.9%	13.8%	10.8%	9.2%	9.2%

継続教育が充実している	看護内容が充実している	介護休暇がとれる	資格取得支援がある	夜勤回数が少ない	無回答
5	4	3	3	0	3
7.7%	6.2%	4.6%	4.6%	0.0%	4.6%

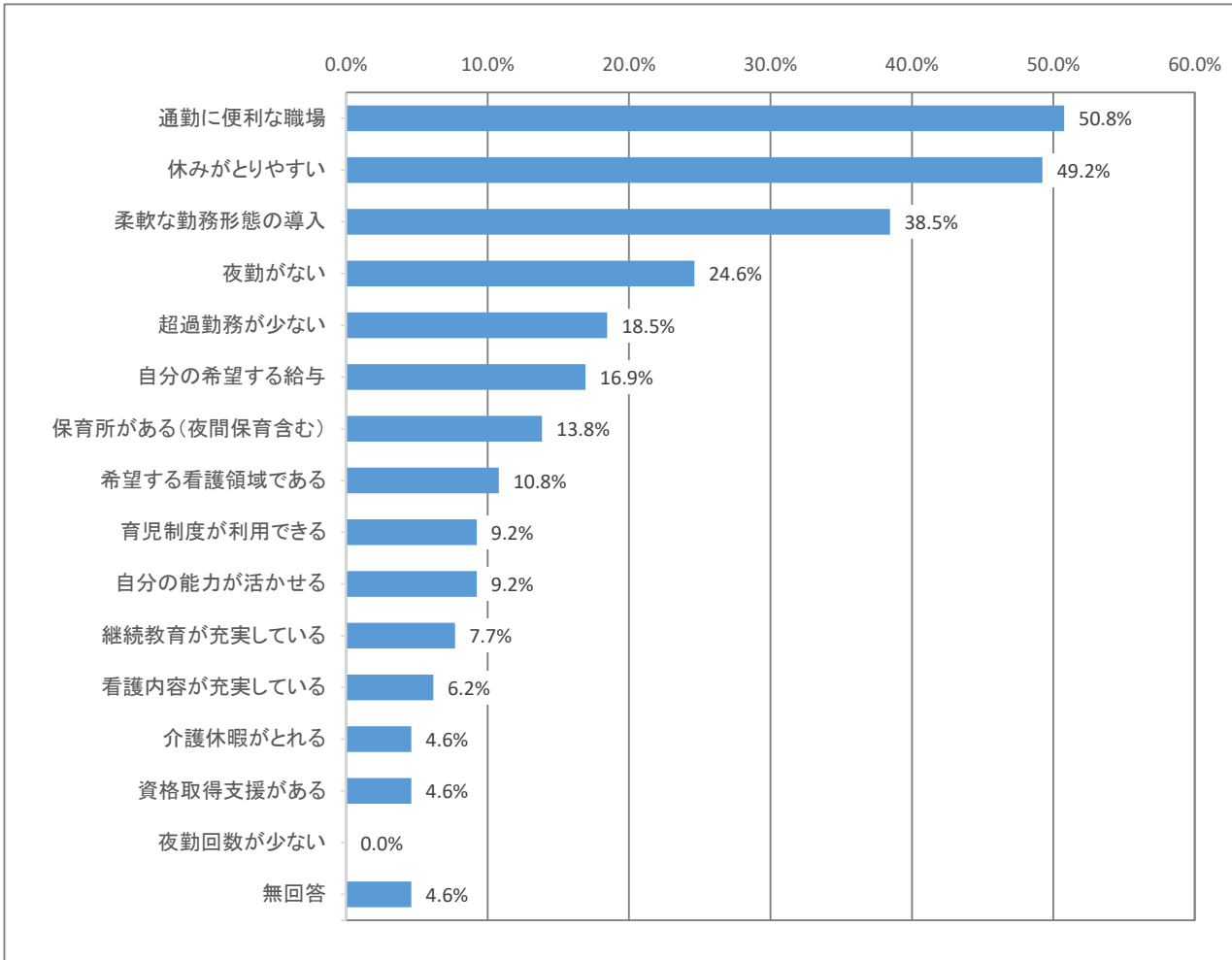


図11 就業条件

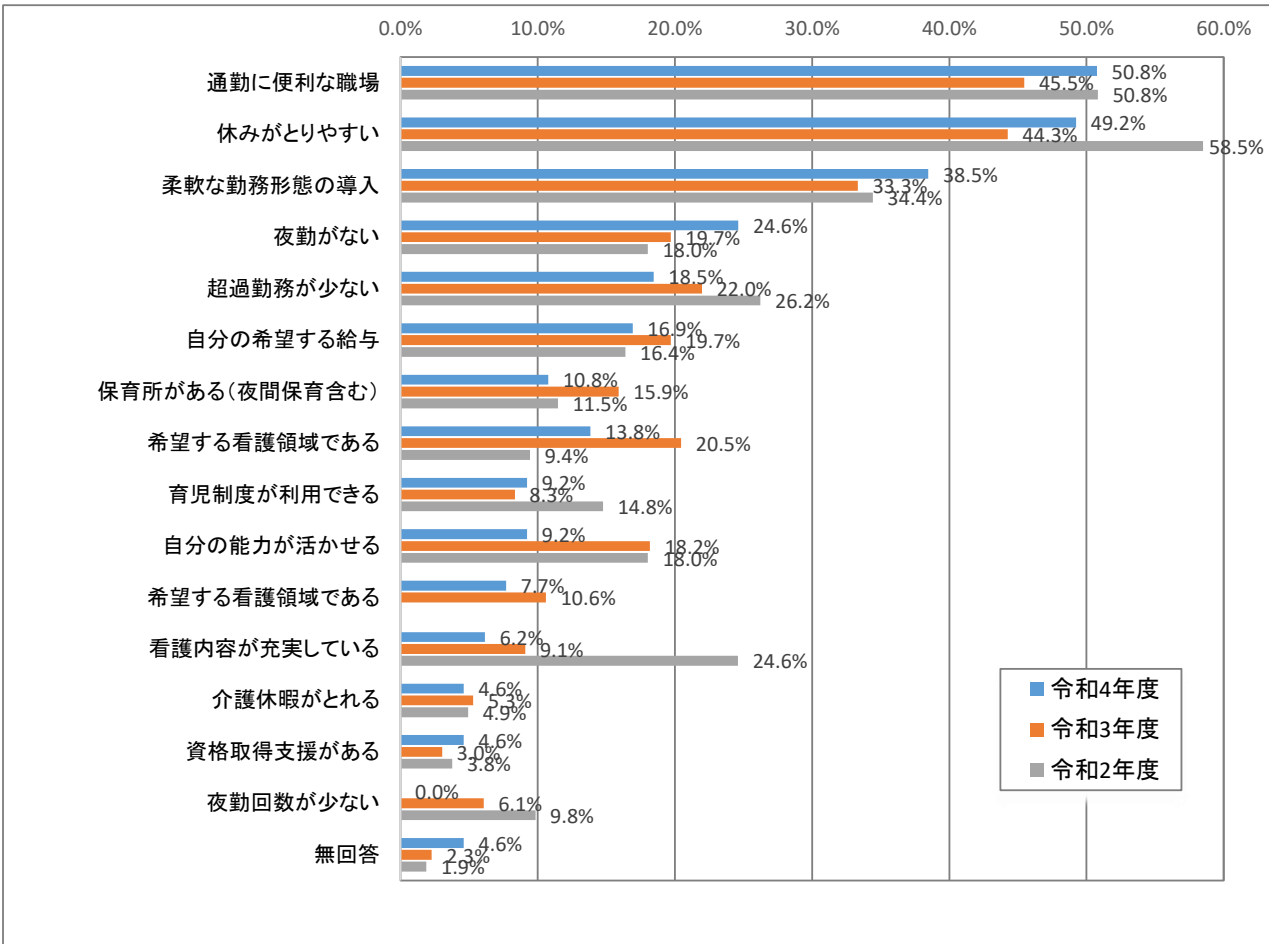


図12 就業条件(3年推移)

14.再就業に向けて希望する研修

再就業に向けてどのような研修を希望するか自由記載で問うたところ、22件の回答があった。

- ・看護技術や応急処置などの実技研修12件
- ・電子カルテ・パソコン操作関連3件
- ・最近の医療看護の動向や情報2件
- ・福祉分野2件
- ・エンゼルケア1件
- ・中途採用者の話1件
- ・新人教育指導1件